

ウェルビーのおPREMIUM展示場  
xevoΣ PREMIUM

## 矛盾を内包し、昇華するインテリアコーディネート



### たどり着いた答え

「AUFHEBEN」。アウフヘーベンという言葉をご存じだろうか。ドイツの哲学者が提唱したもので、「矛盾する要素を否定せず、内包し、高い次元へ昇華する」という概念だ。その言葉を羅針盤にして、住宅展示場のセオリーにとらわれないコンテンポラリーな空間が誕生した。

建物は、ダイワハウスの「xevoΣ PREMIUM」。設計はダイワハウス内のトップクリエイターであるハウジングマイスター菊川氏が手がけ、インテリアコーディネーターにはデザイナーアークの永野が指名された。

想定した住まい手は、アーティストの家族だ。仕事のお客さまを自宅でも迎えられるよう、外と内の境界はゆるやかに、「暮らす・働く・集う」が重なり合い、玄関ホールは応接の場に、ダイニングは打ち合わせの場になる。

さらに菊川氏は「注文住宅では、カーテンレスを望むお客さまが増えています。プライベートを担保しつつ、開放感も求める。この矛盾を両立できないだろうか。そう悩んでいたとき、「アウフヘーベン」という言葉に出会いました」と語る。

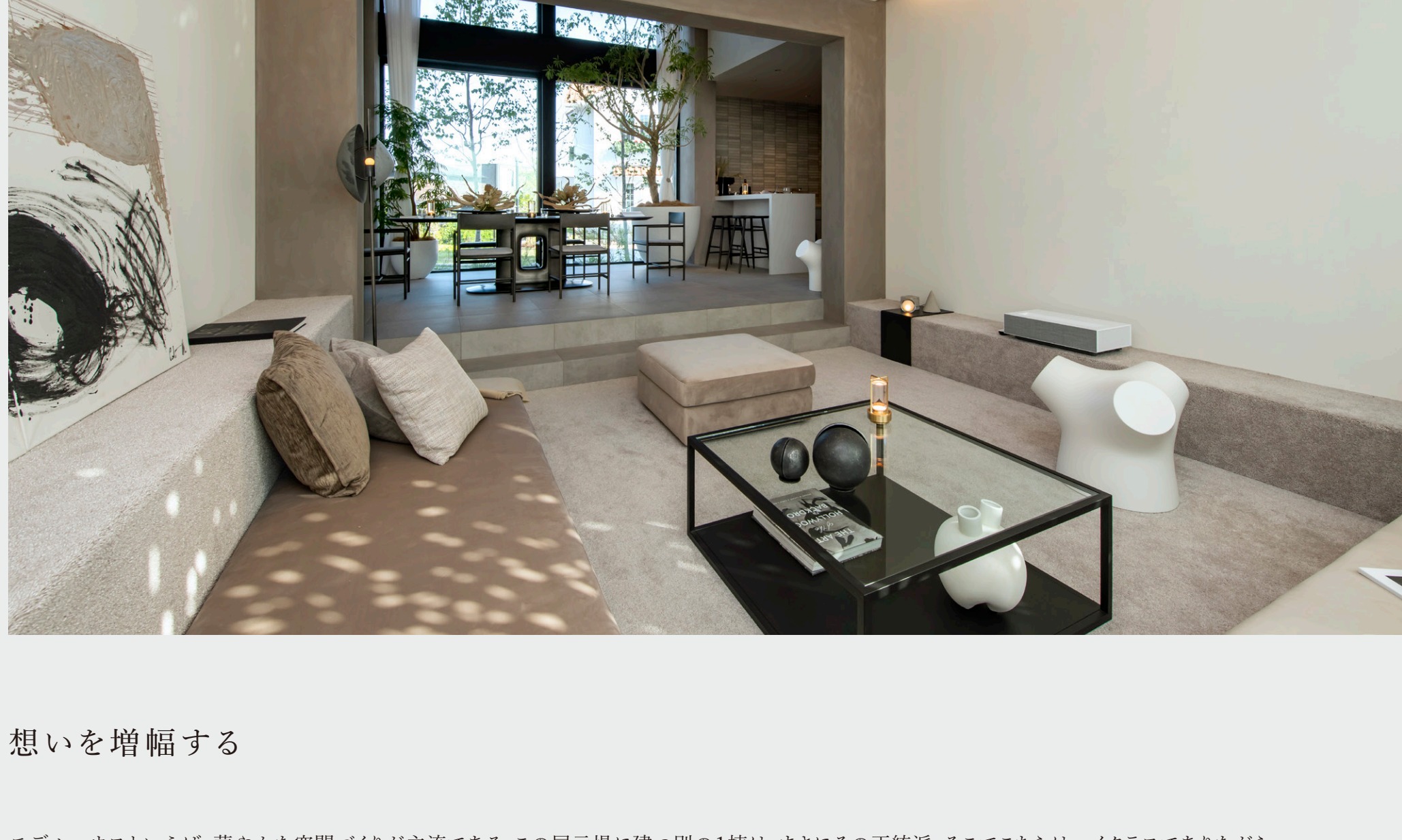
「外」の自然光を「内」でも楽しめる光へ変える。「暗」の空間から「明」の空間へと転換する。「硬い」マテリアルを「柔らかい」ものへ置き換える。菊川氏の構想すべてが「アウフヘーベン」という概念で包摂できた。たどり着いた答えを聞かされた瞬間、永野の心も大きく高鳴った。

「アウフヘーベン」という言葉に導かれ、インテリアコーディネートの方向性も鮮明になっていく。象徴的なのは、天井高が6m以上に及ぶダイニングのレースカーテンだ。プライベート性と開放感を両立すべく、生地は透過性がグラデーションになっていて、「上部は外が見えて、下部は目隠しできるものを」とオーダーされたのだが、既製品にそのサイズは存在しない。永野は、特注品を引き受けてくれるメーカーや工場をようやく探し当て、生地から製作したという。

「私の仕事は、設計者の想いを具現化することです。どういふものを探していらしゃるのかを引き出し、自分の中に吸収し、“ベスト”なものを探し続けます。そうやって難題をクリアするのが楽しい」と永野は笑う。その静かな語り口調に隠した信念はどこまでも熱かった。



株式会社デザイナーアーク  
大阪本店 大阪(インテリア第1営業所) 営業課 主任  
インテリアコーディネーター  
永野 久美



### 想いを増幅する

モデルハウスといえば、華やかな空間づくりが主流である。この展示場に建つ別の1棟は、まさにその正統派。そこでこちらはハイクラスでありながら禅のような静けさに満ちたミニマルなコーディネートで、美術館のごとくアーティスティックな空間を追求した。

ラスティクスタイル®のカフェやホテルにもインスパイアされた。壁は手仕事の塗り壁に。カラーは自然の色そのままに。永野は「シンプルな素材や控えめな色の良さを、すべての人や世代に理解してもらおうのは難しい。それでも菊川さんが最後まで揺るがずに貫かれたので、私も同じゴールに向かって進み続けることができました」と振り返る。

1段低くなっているロースタイルリビングでも、「家の所々に語りたい場をつくりたい」という設計者の想いを増幅した。壁際や窓際に立ち上がる基礎の高さ、奥行を調整してもらい、カーペットで覆ってベンチに仕立てたのだ。ソファもステップの一部となるような形状を吟味した。こうして設計者の思想を具現化することこそが、インテリアコーディネートの真髄だ。

※木やレンガ、鉄など素材の風合いや手作業の跡を残したインテリアスタイル。



大和ハウス工業株式会社  
ハウジングマイスター  
一級建築士 インテリアコーディネーター  
菊川 人樹さま

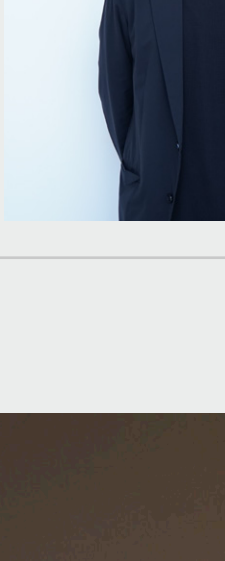
菊川氏は、永野のどこを見込んで指名してくれたのだろうか。「設計のコンセプトを理解して、意図をくんだものを2案、3案、なぜそれを選んだのか理論立てて提案してくれるところだ」。菊川氏は「コンセプトありきのデザインが好きだ」と言う。最初にコンセプトがあって、そこからカタチが決まってく、その過程が面白い。だからこそインテリアコーディネーターともコンセプトを共有し、要望を超えた提案と専門家としての助言を求める。「永野さんは提案と助言のバランスが絶妙な感じ加減なんです。しかも打てば響く人だから、打ち合わせをすればするほど期待に応えてくれて、感謝しかありません」。

この住宅展示場では「アート」と「光」と「あかり」が重要な役割を果たしている。アートピースは、街の通りにポンと置かれた作品のように、さりげなく主張するものを選んだ。光は、依頼された課題の「木漏れ日」を表現するため、レーザーカットで光を通すロールスクリーンを提案。まぶしい西日でさえも光に照らされる光の点となり、空間に興を添える。あかりの計画には、大光電機の照明デザイナー花井氏が参画した。最も目を引くのは、やはり吹抜けの大空間をドラマティックに彩るダイニングのペンダントだろう。そしてテーブルには真鍮のランプが1つ置かれた。すべてをセッティングした納品後のある夜、永野は「このテーブルランプの数を増やして、光の点を散らしたい」と思い付き、ランプを買い足した。菊川氏は「ランプを複数個並べたり、移動させたり、光で遊ぶようになりました」と永野の提案を喜ぶ。こうしてアートや光、あかりなどすべてが融合し、空間の完成度が高まった。

設計者の菊川さんは明確なイメージを持っておられました。内か外かわからない曖昧なダイニングをつくりたい。吹抜けの大空間にはペンダントを散りばめたい。これらを照明の力で具現化してきました。日が沈むと、大きな大開口は夜の闇と「同化」し、吹抜けの60台のペンダントは、恣越しの星空と「融合」しました。

皆で知恵を出し、建築・インテリア・エクステリアをあかりでつなぎ合わせる。

最高の「夜景」をつくり出すことができました。



大光電機株式会社 住宅デザイン部大阪オフィス  
花井 津彦さま

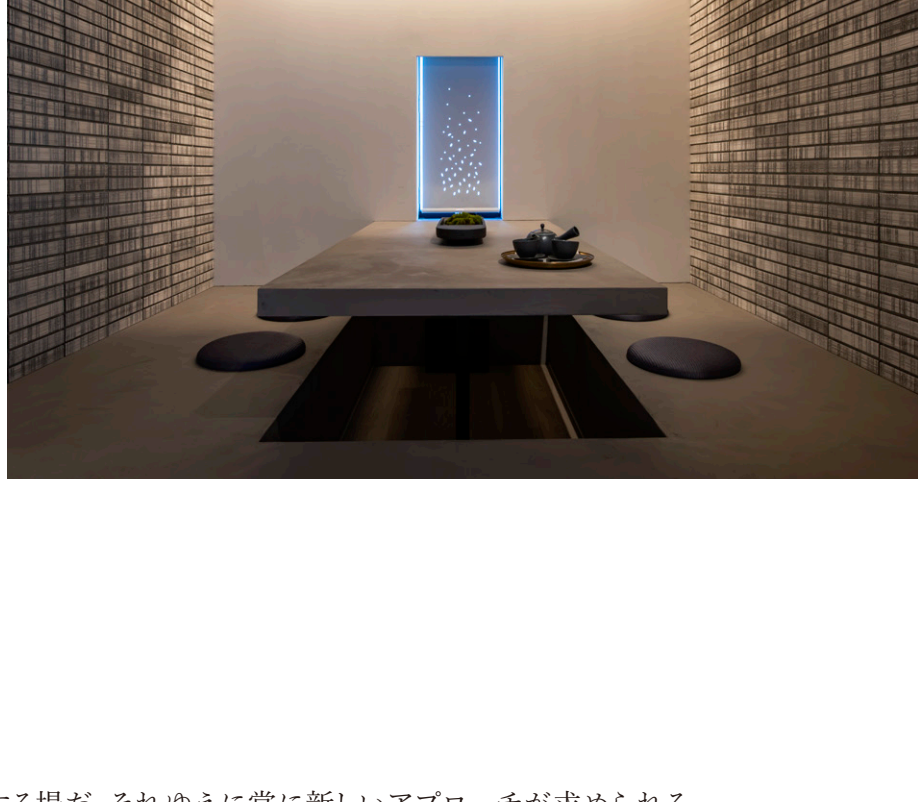


永野の仕事は、大勢の人に支えられている。営業の清原とは二人三脚で取り組んできた。清原は契約やコスト、納期などを管理しながら、永野の仕事もサポートする。今回は「目立たせたくない」とオーダーされた空調計画を技術部門と共に作成し、永野をバックアップした。リビングのプロジェクトや防音室の楽器などは、環境設備部門の社員が手伝ってくれた。同僚であるインテリアコーディネーターたちの存在も心強い。皆が最新の建築物や空間デザインにアンテナを張り、取引企業や専門デザイナーとのネットワークを共有し合う。清原は「永野さんは難しい要望にも『できない』とは言わず、実現する方法や代案を出し、プラスαに変えていく」と評するが、永野は「いろいろな力を借りてから(笑)」と謙遜する。



株式会社デザイナーアーク  
大阪本店 大阪(インテリア第1営業所) 営業課 主任  
清原 周

「自分一人じゃできないことも、他の部門と力を合わせれば実現できる。そうやって今後もお客さまにご満足いただけるものを提供したいと思っています」。



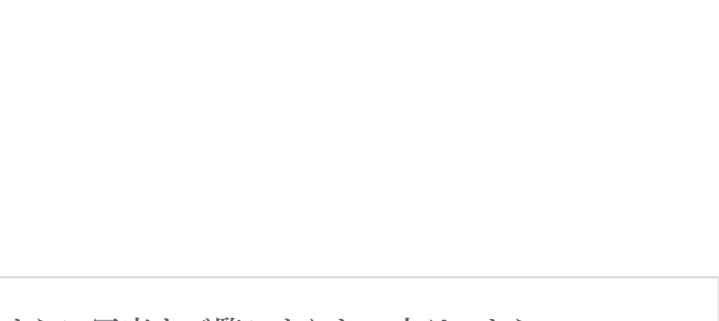
### 建築とインテリアの共鳴

住宅展示場は、住宅のトレンドをリードし、最新のデザインコンセプトを提示する場だ。それゆえに常に新しいアプローチが求められる。

菊川氏は、主寝室に「柔らかい建築」「柔らかい壁」をつくり出した。コンセプトは、優しいものに包まれたい、好きなものを見ていたい、という2つの要望を叶えられる部屋。張り巡らせたカーテンを開けると、壁一面の収納が現れる。永野は、布の質感にこだわり、ショップのようなウォールストレージを室内のデザイン室の協力を得て完成させた。

和室も、ありきたりの和室ではない。モルタルアートの塗り壁がそのまま床へ続き、造作テーブルも同じ仕上げに。畳がなくても、余計なものを削ぎ落とした空間は、日本の美そのものだ。

具体的なモノやカタチより、本質を抽出して、深く広い抽象的な視点で空間を捉える試みも、「アウフヘーベン」とも共通する。さらに設計者やインテリアコーディネーター、さまざまな人々が連携し、より高次の空間を生み出すプロセスも「アウフヘーベン」だといえる。会社も立場も超えてたどり着いた先には、「最高の夜景」が輝いていた。



ウェルビーのおPREMIUM展示場  
住所 大阪府箕面市今宮1丁目1番1号ABCハウジング WELL BEみのお 22号地  
電話番号 080-3067-7096  
営業時間 10:00~17:00 定休日 水曜日  
商品名 xevoΣ PREMIUM  
階数 2階建  
構造 鉄骨

さらに写真をご覧になりたい方はこちら >

インテリア事業のご案内はこちら >

デザイナーアークでは、ハウジングからオフィス・商業・ホテル空間等のインテリアプロデュース・納品等を行っております。下記HPでも施工事例をご紹介しますので、ぜひチェックしてください。これからさまざまな情報を発信していきますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。